

# NEWSLETTER 29

GLOBAL MAPPING

## 第三回 世界水フォーラム

内川 謙二

国土地理院 環境地理課 課長補佐



水のEXPO会場

3月16日から23日までの8日間、京都を主会場に滋賀、大阪にまたがる琵琶湖・淀川流域において第3回世界水フォーラムが開催されました。

この、世界水フォーラム(WWF)は、世界水会議(WWC)の提唱により、21世紀の国際社会における水問題の解決に向けた議論を深め、その重要性を広くアピールすることを目的として3年に1度、国連水の日(3月22日)を含む期間に開催されています。

第1回世界水フォーラムは、モロッコのマラケシュで1997年に約500人の参加により開催されました。第2回は、2000年にオランダのハーグで開催され、世界各国から約5,700人の参加者を集め、世界の深刻な水問題の解決に向けての取り組みについて国際的な議論がなされ「世界水ビジョン」を発表しました。

第3回世界水フォーラムは、昨年8月から9月に、南アフリカのヨハネスブルクで開催された

「持続可能な開発に関する世界首脳会議」(WSSD)において、水が最重要分野の1つとして取り上げられるなど、水問題が世界的な関心を深める中で開催されました。「世界水フォーラム」は、「フォーラム」、「閣僚級国際会議」、「水に関するフェア」の3つの主要な要素で構成されています。

「フォーラム」は世界の水にかかわる政策決定者、大学研究者、技術者、企業、NGO等様々な立場の人々、182ヶ国と地域から2万4,000人の参加者によって、将来の水問題の解決に向けた具体的な行動についての議論が行われました。「閣僚級国際会議」では170ヶ国及び43国際機関の水にかかわる政策決定者が参加して行われ、- 琵琶湖・淀川流域からのメッセージ - とする閣僚宣言が採択されました。閣僚宣言は「公共、民間とも資金や技術投入のためこれまでの倍の努力をする」ことを求めました。「水に関するフェア」は水にかかわる展示会、シンポジウム等の多くの取



地球地図解析に挑戦



湖沼湿原調査のブース

り組みをとおして、水を理解し、水を感じることで、広く一般の人々も含めた多くの人々の水への関心を高めるとともに、ネットワークづくりの場を提供しました。

国土地理院では、3月18日(火曜日)～22日(土曜日)まで、滋賀会場での「フォーラム」への参加と「水に関するフェア」のうち大阪のインテックス大阪で開催された「水のEXPO」に展示を行いました。

### 「フォーラム」

国土地理院は、3月21日、滋賀会場で東京大学空間情報科学研究センターの柴崎教授が主催した「国際河川流域管理のためのGISを用いた知識の統合」分科会に参加しました。この分科会は、地球地図データ等を用いてGISによりガンジス川の流域の水資源管理等を分析した研究成果など、5件の発表が行われました。この中で、ISCGMからは、事務局の政春環境地理情報企画官が「地球地図 - その目的と成果 - 」と題して発表を行いました。比較的小さな会議室でしたが、ほぼ満席になり、それぞれの発表に対して活発な質疑応答が行われました。地球地図の発表では、参加者に大変興味を持っていただき、地球地図仕様に関することをはじめ大変多くの質問を受けました。

### 「水のEXPO」

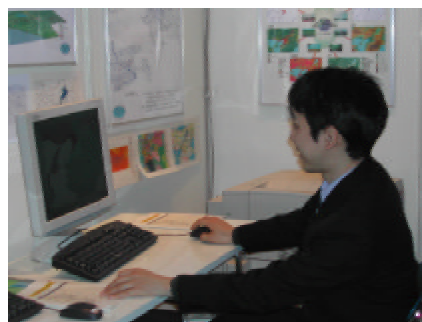
本EXPOは、水のEXPO実行委員会と日本経済新聞社の共催で「水と都市と産業、そして未来～つくり出す水と未来～」をテーマに3月18日から22日まで開催されたもので、国連をはじめとする国際機関、官公庁、研究機関・大学、企業、

NGOなど、水問題にかかわる機関・団体が出展に参加しました。「水」に関する情報や知恵を来場者と共有することにより、社会全体への水問題の啓発・教育、水関連の社会基盤整備の重要性、水にかかわる技術、製品や企業、国、自治体などの役割と貢献などについて国内外に発信するもので、国内外から約400社・団体、約900小間規模の展示となりました。会場内は、「水の課題」、「水と都市」、「水と暮らし」の分野別に展示が行われ、国土地理院は、「水の課題」に参加しました。この「水の課題」は、日本を含む世界各地からのさまざまな水をめぐる諸問題(水資源確保、水源、河川、湖沼環境の保全、水質汚染防止、浄化、森林、生態系の保全、砂漠化防止等)とその解決に向けた国際機関や各国政府及び日本の官公庁・自治体、NGO等の取り組み等を幅広く紹介したコーナーでした。

国土地理院では、主に地球地図と湖沼湿原調査をテーマに参加しました。

地球地図のブースでは、地球地図の理念、歴史、進捗状況、および地球地図データの内容の紹介を行ないました。

地球地図とは地球環境問題を考えるための基礎資料となりうるもので、世界各国の地図作成機関等が協力して作成するプロジェクトであり、現在129ヶ国・地域の参加を得て、すでに12ヶ国のデータが公開されているということを説明する

事務局技術担当者による  
デモンストレーション



湖沼湿原調査員による説明

と、多くの来場者から驚きと期待の声が寄せられました。来場者の多くは日本人でしたが、日本の国土地理院が地球地図国際運営委員会の事務局という重要な仕事を担当していることに対しても、理解と激励をいただくことができました。

また、地球地図データの内容の紹介として、地球地図の出力図を展示しました。特に、地球地図の標高データを活用して生成した、3次元に可視化した出力図や河川の傾斜の各国の比較図は、多くの方々の注目を集めていました。また、地球地図データから生成した画像を多用した、自動プレゼンテーションも多くの人々の注目を集めていました。さらに、実際のデータに親しんでいただくために、PCを用いた体験コーナーを設置しました。これらによって地球地図とGISに対する理解を深めてもらうことができ、どのようなデータが2007年までに地球の全陸域を覆うことになるのか、実感を得てもらうことができました。また、事務局では、すでにデータが完成している12ヶ国の水系データを背景に用いたカレンダーを作成し、会場を訪れた人に配布しました。各国の水系の様子が一目瞭然でありながら実用性もあり、全体として良くデザインされたカレンダーになっており、水のEXPOの来場者のみならず、より多くの方に地球地図を知っていただけたのではないかと考えています。

この他、今年7月に予定されている「地球地図フォーラム 2003 (GMF03) in 沖縄」を紹介し、本フォーラムに対する参加を呼びかけました。

また、衛星による環境モニタリングの成果として、NOAA 衛星がとらえた中国最大の河川長江流域における1995年の洪水の状況を展示しました。

今回の展示で、一般の方、研究者、教育・行政関係者など、多くの人に地球地図を理解していただくことができました。

湖沼湿原調査のブースでは、メインとして、「琵琶湖周辺余色立体図」の床展示を行いました。この図は、メガネを通して琵琶湖とその周辺の地形の様子を立体的に体験できるものです。5日間を通して、一番人気があったのがこのコーナーでした。

会場内では、連日有識者などによるシンポジウム、講演会が開催され、多くの聴講者により、水との関わり、世界の水問題(干ばつによる飢饉、洪水等)について議論されていました。

「水のEXPO」は5日間で98,000人の来場者があり、成功裡に終了しましたが、多くの地で水問題が今も生じています。特に世界人口の6分の1が衛生的な水の確保や飲料水の不足に苦しんでいます。また、アフリカをはじめとして世界中の数百万人の子供達が毎日、水関連の病気で亡くなっている状況等、深刻な状態が続いています。さらに、洪水をはじめとする水に関わる災害も世界中で頻繁に起きている今、水の大切さ、水のあり方、水とのふれあい方等いろいろと考えさせられる5日間でした。



水の演奏会

## マリが地球地図に参加！ブルキナとセネガルは地球地図公開の準備を完了！

永山 透

地球地図パートナーシップ・プログラム (GMPP)、チーフ・コーディネーター  
国土交通省



セネガル DTGC の職員の方々と

2003年2月から3月にかけて、地球地図の促進のための地球地図パートナーシップ・プログラム業務の一環として西アフリカの3カ国(セネガル、マリ、ブルキナファソ)を訪問し、それぞれの国家地図作成機関の責任者と話し合いを持ちました。責任者たちは地球地図への積極的な参加の意思を以下のように表明しました。

### セネガル

国土整備運輸省測量局(DTGC)は2001年から地球地図に参加しています。DTGCのY.Ndong局長との話し合いでは、技術移転分野における最近の活動、セネガルの地球地図国際運営委員会(ISCGM)への参加の可能性や多方面での地球地図の実際の利用の重要性が主に取り上げられました。また、Ndong局長は、ISCGMの要請に応じてISCGMのホームページでセネガルの地球地図を一般公開するための承認文書に署名しました。地球地図セネガルは、2003年の後半にISCGM事務局がデータ検証を終了した後に公開が予定されています。

また、国土整備運輸省の技術顧問のA.Gueye氏とも話し合いを持ちました。Gueye氏は、水資源施設や道路網などの基盤の整備と運営のために地理情報の解析が有効であることをふまえ、西アフリカやセネガルのマクロ規模の基盤政策の策定のための地球地図データの利用に期待を表明しました。

### マリ

マリ国の首都のパマコでは、マリ国土地理院(IGM)のI.Coulibaly院長と職員の方々から暖かい歓迎を受けました。マリは地球地図には未参加のため、マリの地球地図への参加の可能性について話し合いを持ちました。その結果、Coulibaly院長はマリ国土地理院が地球地図に参加する意向であることを明らかにしました。つまりマリは129番目の地球地図参加国になるということです。マリの地球地図が完成することで、北部と中央部の地域の天然資源の脅威となっている砂漠化の観測基盤や制御手段に役立つことが期待されます。

### ブルキナファソ

ブルキナ国土地理院(IGB)は1995年から地球地図に参加しています。IGB院長のC.O.Tapsoba氏は、会談時にISCGMのホームページで地球地図ブルキナファソを一般公開する承諾書に署名しました。ブルキナファソの地球地図データは検証が済んでいるため、ISCGMのホームページにまもなく掲載される予定です。Tapsoba氏は、地球地図に深い関心を示され、積極的に参加する方法について筆者に質問しました。このため筆者はブルキナファソの参加を促進するため、地球地図の幅広い活動について詳しく説明しました。この会談は、今後IGBがさらに地球地図活動に係わるための出発点となったことと確信します。



マリ IGM の職員の方々と



ブルキナファソ IGB の職員の方々と

### まとめ

地球地図の分野でのセネガル、マリおよびブルキナファソの活動が、未参加国の新たな参加を含む、西アフリカ地域での地球地図のさらなる実施に繋がることを期待されます。今後、この地域の

整備された地球地図データは、西アフリカ地域の持続可能性の脅威となっている砂漠化やその他の深刻な環境問題に対処するために効果的に利用されるよう期待されます。

また、この地域とアフリカの他の地域を一体化した地球地図データは、アフリカの開発のための新パートナーシップ (NEPAD) の枠組みにおける他の関連プロジェクトとともに、具体的な基盤のための重要な基礎情報となると考えられます。2001年に創設されたNEPADは、21世紀のアフリカの開発のための青写真を示すものであり、アフリカでの協働による均衡のとれた開発のための地域志向の取り組みにとって重要になります。

## デジタル・アース - 持続可能な地球のための情報資源 知識、ネットワーク、技術、経済、社会、天然・人的資源、政策及び戦略 チェコ共和国ブルノ、2003年9月21日～25日

第3回デジタル・アース国際シンポジウムは、デジタル・アースのための地球観測及び処理技術、持続可能性の意義及び情報社会でのデジタル・アースの構築、伝達、モニタリング及び評価を取り上げます。このシンポジウムの主要課題のひとつは、即地的ではあるが、知識や英知にあふれた地理(空間)情報の整備と、進展する情報社会の他の面との関連性を強化することです。本シンポジウムの他の重要な部分はグローバル・ソサエティ・ダイアログとネットワーク化された知識社会に付随する電子政府、電子行政及び電子議会です。地球全体の持続可能性対自国の安全保障についての課題も非常に興味深いものになります。最後に市民へのサービスの伝達やデジタル都市、コミュニティ、地方に関連する課題があります。国際地図学協会、ISO及びオープンGISコンソーシアムなど、いくつかの国際機関が本シンポジウムを後援します。さらにチェコ共和国のいく

つかの省が本シンポジウムの主催者に含まれます。FAO、UNEP及びUNESCOなどの国連機関が招待され、持続可能な開発に関わる国連の活動や、情報社会及び全地球空間データプロジェクト(地球地図、GSDI、GISD)が含まれます。ヨーロッパレベルでは情報社会、環境、農業、地域及び研究に関わる大臣がプログラムの準備段階を含めて本シンポジウムに参加するよう依頼されています。全地球の持続可能な情報社会の創造のための必要条件、その過程及び障害についての議論が本シンポジウムで計画されています。

### ミラン・コネチニー

第3回デジタル・アース国際シンポジウム組織委員会会長

<http://digitalearth03.geogr.muni.cz>

[digitalearth03@geogr.muni.cz](mailto:digitalearth03@geogr.muni.cz)

[konecnny@ics.muni.cz](mailto:konecnny@ics.muni.cz)

## 地球地図の参加状況

### 地球地図の参加状況

2003年3月25日現在

地球地図の参加国・地域数

129ヶ国・地域

地球地図への参加を検討している国・地域数

18ヶ国・地域

### 地球地図への最近の参加国

英領バージン諸島都市国土計画局

2003年1月7日

マリ国立地図地形局

2003年3月10日

**第16回国連アジア太平洋地域地図会議(UNRCC-AP)**

"Evolving into a New Stage - SDI for Sustainable Development in Asia and the Pacific"

国連主催 2003年7月14日～18日

詳細は事務局まで。(E-mail: sec@pcgiap.org)

**PCGIAP アジア太平洋地域地籍ワークショップ**

2003年7月12日～13日

**第10回地球地図国際運営委員会会合**

2003年7月11日

**地球地図フォーラム2003 in 沖縄**

2003年7月12日～15日

**測量・地図技術フェア in 沖縄**

ニューテクノロジー「測量と地図」 - 今と未来

2003年7月15日～17日 入場無料

詳細は実行委員会事務局 吉村・森まで (E-mail: mori@geo.or.jp)

**事務局からのお願い**

News Letterをお読みいただきありがとうございます。当事務局では、地球地図の利用例の紹介、データ作成者のエピソード等も掲載していきたいと考えておりますので、是非事務局まで原稿をお寄せ下さい。なお、NewsLetterに関するご意見、ご感想もお待ちしております。

**地球地図及び関連の会合予定**

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

**2003年**

4月7日～11日、ドイツ、フライブルク

第2回国際南極GISワークショップ

SCAR GI 技術専門家会合 2003

4月16日～18日、モルドバ、キシニョフ

国家及び国際レベルにおける空間データ基盤の設立に関する国際会議

5月12日～15日、

エチオピア、アディスアベバ

第3回国連開発情報に関する委員会(CODI)会合

5月19日～23日、

ルーマニア、ポイアナブラショフ

国連/ルーマニア地域ヨーロッパのための災害管理宇宙技術利用に関するワークショップ

5月22日～23日、スイス

第16回 ISO/TC211 本会議

6月3日～6日、タイ、バンコク

ISPRS WG VI/8ワークショップ“全地球環境データベース現在 将来のニーズへの適応”

7月11日、日本、沖縄

第10回 ISCCGM 会合

7月12日～13日、日本、沖縄

PCGIAP アジア太平洋地域地籍ワークショップ

7月12日～15日、日本、沖縄

地球地図フォーラム2003 in 沖縄

7月14日～18日、日本、沖縄

第16回国連アジア太平洋地域地図会議

7月20日～25日、英国、ケンブリッジ

ケンブリッジ会議

8月10日～16日、南アフリカ、ダーバン

第21回国際地図学会議

9月21日～25日、チェコ、ブルノ

第3回 デジタル・アース・シンポジウム

10月または11月、ドイツ

第17回 ISO/TC211 本会議

11月4日～8日、セネガル、ダカール

アフリカGIS '03 会議/展示会

**編集、発行 : 地球地図国際運営委員会事務局****連絡先 : 〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院**

Tel: 029-864-6910 Fax: 029-864-6923

**ホームページ : <http://www.iscgm.org/>****E-mail : [sec@iscgm.org](mailto:sec@iscgm.org)**